

第4回5/13 (CS3年・荒井) ネットワークプランニング

小規模LANの構成例と作図

※本資料は授業後(数日以内)にWEBで閲覧できるようにします※

2013/05/13 第4回ネットワークプランニング13(荒井) 1

今日の予定

- Visio(作図ソフト)の試用
- TCP/IPとイーサネット、及びハブ、スイッチ、UTPケーブルの復習
- 同室内数台規模のLAN
- 同室内十数台規模のLAN
- スイッチを利用したLANのデータの流れ
- 異なる2部屋での十数台規模のLAN
 - Visioによる作図⇒提出

2013/05/13 第4回ネットワークプランニング13(荒井) 2

○Visioの基本的な使い方

- Visioは「直感的な操作と効果的なビジュアル化で情報にインパクトと価値を持たせる」資料を作成するためのツール
 - <http://www.microsoft.com/japan/office/visio/prodinfo/default.mspx>
 - 作図ソフトであり、インテリジェントCADではない
 - よって、論理的に不可能な設計図も作成可能
- 一般的な使い方
 - 立ち上げ、図面種類、図形(ステンシル)の利用と変形、その他
- ネットワーク図の描き方
 - 「ネットワーク: 詳細ネットワーク図」における図形の使い方。
 - 試してみよう
 - イーサネット、HUB、PCIによる簡単な構成のネットワーク作図
- 保存と再開(開く)

2013/05/13 第4回ネットワークプランニング13(荒井) 3

Visioで書いてみよう

- イーサネットを配置してみよう
 - 伸ばしたり、細くしたりしてみよう
- 表示の倍率(ズーム)を変えてみよう
- PCを配置し、名前「A」を書いてみよう
 - 名前の位置を動かしてみよう
- PCをイーサネットに接続してみよう
- ハブやスイッチ、ルータを配置してみよう
- 描画ツールの直線で線を引いてみよう
- ハブとPCを直線で接続してみよう
- テキストツールや表題などで名前などを書いてみよう

2013/05/13 第4回ネットワークプランニング13(荒井) 4

[復習] TCP/IPとOSI参照モデル(1)

- TCP/IP は ARPAnet (アメリカの国防総省の関連組織DARPAが設計)から発展したプロトコル
- Unixで一般的に利用(カリフォルニア大学バークレイ校により1981年頃より)できるようになった。
- OSI参照モデルは仕様ではなく指針であり、TCP/IPはこれを参照して作られた実際のプロトコル

<http://www.atmarkit.co.jp/ict/root/08/5798908.html>

2013/05/13 第4回ネットワークプランニング13(荒井) 5

[復習]第1層ネットワークデバイス(※3.7)

- 第1層(物理層): リピータ、ハブ
 - 単に電気信号を中継するので、ノイズはノイズのまま送り出してしまう。
 - リピータは、電気信号を増幅するケーブル延長装置で、10Base5, 10Base2で使用。
 - ハブは、集線装置・中継装置で複数のLANケーブルを挿し込む。
 - リピータとして働くので、リピータハブとも呼ばれる。

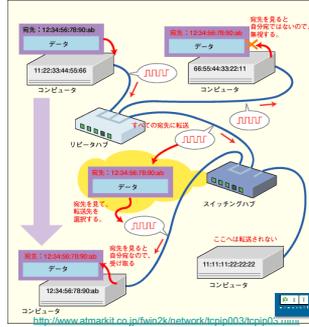
<http://www.atmarkit.co.jp/win2k/network/tcpip003/tcpip03.html>

2013/05/13 第4回ネットワークプランニング13(荒井) 6

[復習]第2層ネットワークデバイス(1)(※3.7)

第2層(データリンク層):ブリッジ、スイッチ

- 一度データをバッファに溜め込み解釈して中継する。よって、コリジョンにより破壊されたフレームを取り除くことができ、コリジョンドメインがここで分割される。
- ブロードキャストドメインは分割できない



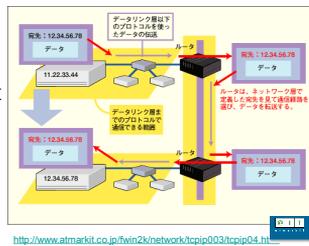
[復習]第2層ネットワークデバイス(2)(※3.7)

- ブリッジは、フレームヘッダを解釈し、データリンク層の宛先であるMACアドレスにより、宛先と送信元を識別する。
 - 最低2口のポートを有し、片側から片側へ中継する。
 - ラーニングブリッジ(MACアドレス学習ブリッジ)が一般的になり、ある口(ポート)に接続しているノードのMACアドレスを覚え、不要なパケットは流さない。
- スイッチは、ハードウェアにより高速に動作する。一般的に2つの中継ではなくハブのように集線装置を兼ね、スイッチングハブと呼ばれる。

[復習]第3層ネットワークデバイス(※3.7)

第3層(ネットワーク層): ルータ

- ネットワークとネットワークを接続する装置
- パケットヘッダにある宛先アドレスを調べ、ルーティングテーブルを参照して、宛先までの経路を決定し、中継する。



[復習]ネットワークデバイスの種類(※3.7)

- 層によって利用するネットワークデバイス(機器)(ネットワーク接続機器)が違う。
- 第1層(物理層):リピータ、ハブ
 - 電氣的増幅
- 第2層(データリンク層):ブリッジ、スイッチ
 - MACアドレスを宛先として、フレーム(パケット)を中継
 - コリジョンドメインを分割
- 第3層(ネットワーク層):ルータ
 - ネットワークとネットワークを接続し、IPアドレスを宛先として経路選択
 - ブロードキャストドメインを分割
- ハブ/リピータハブのこと
- スイッチ→スイッチングハブ(L2スイッチ)のこと
- 単機能のブリッジ機器は現時点では殆どなくなったが、機能としては存在している

[復習]UTP(Unshielded Twisted Pair) ケーブル (※3.3)

- 100BaseTX(ファーストイーサ), 10BaseTで使われるUTP ケーブル
- 8本を2本ずつ対にしてより合わせ(ヨリ対線)である。
- 導線の周りはシールドされていない(シールドされているものはSTPケーブル)
- 電気特性のグレードを示すカテゴリーがある
- 最も一般的なLANケーブル

[復習] UTPのカテゴリ(※3.3)

- カテゴリ5(CAT5)
 - 100Mbpsまでの通信に対応できるケーブル。
 - 10BaseT, 100BaseTXで使われる。
- エンハンストカテゴリ5(CAT5E)
 - (現在最も標準的)
 - 1000Mbpsまでの通信に対応できるケーブル。
 - 1000BaseTで使われる。100BaseTXでも使用可。
- カテゴリ6(CAT6)
 - 1000Mbpsまでの通信に対応できるケーブル。
 - 1000BaseTXで使われる。

[復習]ストレートとクロス(※3.3)

- 結線の違いにより、ストレートケーブルとクロスケーブルがある。
 - 利用する部分で使い分けるが、一般的に使われる頻度が高いのは**ストレート**
 - 見た目では区別ができないので注意
 - 最近ではHUBに自動判別機能(Auto-MDI/MDI-X)が一般的になってきた
- PCとスイッチ・ハブ間は**ストレート**
- PCとルータ間は**クロス**
 - ハブとハブ間もクロス

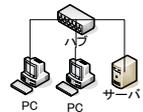
2013/05/13

第4回ネットワークプランニング13(荒井)

13

○一つのセグメントのLAN構成(※3.6;図3-16参照)

- ルータは不要(あってはいけない)
 - 複数の端末(PCなど)を接続するには、ハブ、スイッチが必要
 - 一般的には100Base-TXによるLANが普及
- 数台端末@同室内でのLAN構成例
 - ハブ1台とUTPケーブル
 - 使用するハブのポート数分だけ、端末を接続可能
 - もちろんサーバがなかったり、ネットワークプリンタがあったりする場合などもある



2013/05/13

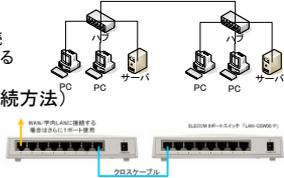
第4回ネットワークプランニング13(荒井)

14

複数台のハブ構成

10数台程度の端末@同室内でのLAN構成

- ハブのスタック接続
 - ハブ同士を専用の方法で接続
 - 1台のハブとみなすことができる
 - LANポートを使用しなくて済む
- カスケード接続(一般的な接続方法)
 - 8portハブ×2台
 - 2台合計のport数は16port
 - しかしハブ間を接続するのに2port使うので、14台分の端末しか接続できない。
 - ハブ間の接続
 - <http://www.planex.co.jp/product/hub/kinofeo/infocoh.shtml>
 - 通常はクロスケーブルで接続
 - カスケードポート(HUB接続ポート)がある場合:ストレートケーブル
 - MDI/MDI-X自動識別機能のあるHUB:どのケーブルでもOK



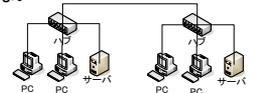
2013/05/13

第4回ネットワークプランニング13(荒井)

15

少し離れた数台×数台のLAN構成

- 先の複数台ハブと構成は同じ
 - ハブ間のケーブルを長くするだけ
 - ハブは何段も接続してはいけない
 - 10BaseTでは2段、100BaseTXでは4段まで
 - ループを作らないように!
- パケットの流れ
 - リピータハブは電気信号の増幅だけ
 - よって、全てのパケットは、全ての端末に流れてしまう。
 - 例えば同じハブに接続されているPC同士の通信でも、別のハブに接続しているPCにもデータは流れる
 - 全体がコリジョンドメインであり、ブロードキャストドメイン



2013/05/13

第4回ネットワークプランニング13(荒井)

16

○Visioによるネットワーク図作画

- 一般的な使い方
 - 立ち上げ、図面種類、図形(ステンシル)の利用と変形、その他
- ネットワーク図の描き方
 - 「ネットワーク:詳細ネットワーク図」における図形の使い方。
 - 試してみよう
 - イーサネット、HUB、PCによる簡単な構成のネットワーク作図
- 提出物作成上の注意
 - まず最初に学番号・名前を!
 - 右上に大きく、テキストツールなどで。
- 今日提出する図は、1ページに二つ
 - 左右に分けて書こう
 - 一つの図が大きすぎないように注意

2013/05/13

第4回ネットワークプランニング13(荒井)

17

●ハブ2台をカスケード接続したLAN構成のVisio作画

- 2台のハブをカスケード接続したネットワーク図をVisioで描いてください。
 - 各HUBには、{PC2台+サーバ1台}
 - ハブはカスケードポートがなく、MDI/MDI-X自動ではないものとし、
 - 各ケーブルがストレートかクロスかが分かるように記載すること。
- (A)Visioによる作画⇒提出物(1/2)

2013/05/13

第4回ネットワークプランニング13(荒井)

18

○スイッチの役割(※3.7,3.8)

- スイッチは第2層(レイヤー2; データリンク層)で動作する
 - 一般的には集線装置を兼ねるスイッチングハブ
 - ハブの段数の制限がなくなる
- 末端はハブ、中はスイッチ、中央はルータというのが一般的な構成
 - 近年スイッチが非常に安価になったので、末端でもリピータハブではなくスイッチングハブを使用するようになった
- ブロードキャストドメインとコリジョンドメインについて
 - スイッチは、不要なパケットを中継しない
 - よってコリジョンドメインの境界となる
 - 勿論コリジョンが全くおきなくなるわけではない
 - ネットワークを分割するわけではないので、ブロードキャストドメインは分割しない

2013/05/13

第4回ネットワークプランニング13(荒井)

19

スイッチによるデータの流れ(※5.1,5.2)

- 一般的なスイッチは、ラーニングブリッジ
- MAC アドレス学習(MAC address learning)
 - ラーニングブリッジの特徴的なサービスの1つ。
 - 受信パケットのMACアドレスを記憶することにより、同じアドレスの付された後続パケットが、そのMACアドレスを持つブリッジインターフェイスにだけ転送されるようになる。
 - 一方、認識されていない宛先へのパケットは全ブリッジインターフェイスに向けて送出する。
 - この手法により、接続されたLANのトラフィックを最小限に抑えることができる。
 - MACアドレス学習はIEEE 802.1で定義されている。

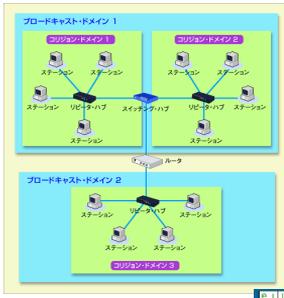
2013/05/13

第4回ネットワークプランニング13(荒井)

20

[復習]コリジョンドメインとブロードキャストドメイン

- リピータ(L1)は複数のセグメントを接続し、単一のコリジョンドメインを形成
- ブリッジやスイッチングハブ(L2)は複数のコリジョンドメインを接続し、単一のブロードキャストドメインを形成するが、コリジョンドメインは別々のまま
 - データリンク層(L2)で動くブリッジやスイッチングハブは、正常なフレームのみを中継し、衝突などによる不完全なフレームは中継しないため、接続されたセグメントはそれぞれ別々のコリジョンドメインを形成することになる
 - イーサネットでは、ブロードキャストドメインが1つのネットワークセグメント
- ルータ(L3)は複数のネットワークを相互接続するが、それぞれのネットワークは別々のブロードキャストドメインとなる
 - ルータはブロードキャストを中継しない



2013/05/13

第4回ネットワークプランニング13(荒井)

21

○LAN構成の注意点

- コリジョンドメインはなるべく小さくして、ネットワーク上に流れる通信量を少なくする工夫が必要。
- 配線になるべく無駄がなく、
- コストがなるべく安くなり、
- 変更にも柔軟に対応できる、
- ネットワークポロジを構成するのがよい。

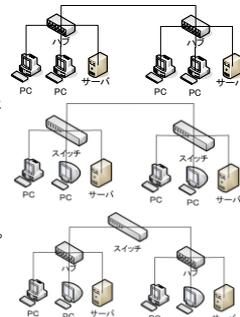
2013/05/13

第4回ネットワークプランニング13(荒井)

22

各部門でトラフィックが多い場合

- 各部門で非常にトラフィックが多い場合を考えてみよう
 - 単にハブ同士を接続した構成だと、PCとサーバのやりとりでも隣の部門にパケットは流れる
 - もちろんコリジョンによる破壊されたパケットも。
- ハブをスイッチに換えると
 - とても良いが価格は高くなる
- スイッチを中心に、ハブを接続すると
 - コリジョンドメインも小さくなり、余計なパケットが他部門に流れなくなる。
 - 機器の価格もそれほど高くなって済む



2013/05/13

第4回ネットワークプランニング13(荒井)

23

●ハブ2台をスイッチにより接続したLAN構成とVisio作画

- スイッチを中心に、ハブ2台を接続してみよう。
 - 端末は前(A)と同じとする
 - 2部門のネットワーク、各部門で相応のトラフィックが発生すると前提。
 - 1部門は前(A)とし、もう1部門も同じとする。
- 全てのブロードキャストドメインとコリジョンドメインをわかるように記入してください。
- ●(B) Visioによる作画⇒提出物(2/2)

2013/05/13

第4回ネットワークプランニング13(荒井)

24

●提出物: Visioによる作図の提出

- 今までの(A)、(B)の2つのLANが書かれた1枚の図面を印刷して提出
 - (A)ハブ2台をカスケード接続したLAN
 - (B)ハブ2台をスイッチにより接続したLAN
- 名前が書いてあるかどうか確認
- どちらが(A)(B)か分かるように
- その他様々な情報も!

2013/05/13

第4回ネットワークプランニング13(荒井)

25

ここまでのまとめ

- TCP/IPとイーサネット、及びハブ、スイッチの復習
- 同室内数台規模のLAN
 - ハブによるネットワーク構成
- 同室内十数台規模のLAN
 - 複数台のハブによるネットワーク構成
- スイッチを利用したLANのデータの流れ
- 異なる2部屋での20台規模のLAN
 - 複数台のハブによるネットワーク構成
 - +スイッチを中心としてネットワーク構成
- ⇒Visioによる2つのLAN図の提出

2013/05/13

第4回ネットワークプランニング13(荒井)

26

次回

- 次回までの宿題
 - 2進法と16進法の計算(序章)
 - 教科書を読んで復習(過去のいくつかの授業で学習済み)しておいてください。

2013/05/13

第4回ネットワークプランニング13(荒井)

27